

「出る杭」から「突出する杭」を目指せ 米粉ドーナツ 2023年 1月販売へ

前回「高校生山形のうまいもの米粉商品開発プロジェクト」で本校がシベール賞を受賞したことを報告しましたが、もう一つ名著ある賞をいただきました。

同じスイーツ部門で本校食料環境科考案の「米粉ドーナツ」が「東北日本ハム賞」を受賞。県内の道の駅などで来年1月の販売が予定されています。

相次ぐ食品加工部門の栄誉に学校も盛り上がっていますが、最近、県内各校で地元の食材を利用した食品開発等が非常に盛んになっており、どれも高校生の柔軟な発想と現状を考えた的確な取組みで生み出された作品を掲げてアピールしており、各校が期せずして競っているような状況大変喜ばしく見えています。

世界的建築家の安藤忠雄さんが何かのインタビューで、「日本で煙たがられる『出る杭』は例えばニューヨークでは当たり前。出る杭だらけのところでは『突出する杭』にならないと生き残れない」というようなことを言われていました。主体的で意欲的な学びを目指しているにもかかわらず、今の日本の教育は、こういうことを体感できる環境が少ないと常々思っていますが、おきのうの周辺にはそういう場が存在すると感じます。

